

歴史は未来の羅針盤

# 温故知新

これまでに刊行しました『近江日野の歴史』は、第一巻「自然・古代編」、第二巻「中世編」、第三巻「近世編」、第五巻「文化財編」、第六巻「民俗編」、第七巻「日野商人編」、第八巻「史料編」となりました。教育委員会や各公民館などにおいて、一冊四、〇〇〇円で好評販売中ですので、ぜひともお買い求めください。

『近江日野の歴史』第8回配本の第4巻「近現代編」は、平成26年3月に刊行予定です。

今回は、そのおもな内容についてご紹介します。

## 近現代編のあらまし

幕末維新期から、明治・大正・昭和、そして平成の現在に至るまでの約150年、この間私たちの暮らしをとりまく政治状況や社会環境は大きく変貌しました。

本巻では、激動の日本の近現代史のなかで、日野に生きた人々が重ねてきた営みと努力の具体相を、町内に伝来した古文書や絵図・新聞・古写真・石碑といった史料をもとに記述します。

## 各章のおもな内容

第1章「近代の幕開け」では、幕末維新期から明治前期を対象としています。明治新政府は、中央集権国家の建設を目指し、徴兵制・

地租改正や学校の設立など新制度を導入するにあたり、その下支えを地域に要求しました。本章では、

こうした国家的な課題に対し、日野の人びとがどのように対応していったのかについて詳述します。

第2章「明治中後期・大正期の地域の変貌」では、明治中期から大正期を対象としています。この時期の日本は、あらたな地方行政のしくみが確立し、民主主義が浸透した時代でした。日野町域でも、明治22年の町村制の施行を受けて、日野町・西大路村・鎌掛村・北比都佐村・南比都佐村・桜谷村（明治27年東西に分村）の1町5村が成立し、本格的な近代地方行政のあゆみが始まります。またこの時期は、富国強兵をスローガンとして産業革命が推し進められた時代でした。日野町域でも銀行・株式会社が相次いで設立され、近江鉄道の敷設も進められました。本章では、これら近代行政の様相

や社会資本の整備状況、諸産業の発展などを中心に、当時の日野の様子を明らかにします。

第3章「昭和の開幕から戦時体制へ」は、昭和初年から終戦までを対象としています。この時期は、昭和初年に相次いで起こった経済恐慌の影響を受け、日本は満州事変、日中戦争、そしてアジア・太平洋戦争へと続く戦争の時代へ突入しました。本章では、日野の人びとがどのように戦争に巻き込まれたのか、戦時下の地域の体制や暮らしはどのようなものであったのかについて詳述します。

第4章「日野町の成立と発展」は戦後から現在までを対象としています。戦後、焼け野原から歩み始めた日本は、さまざまな分野で戦後改革をすすめる民主主義国家として再生を果たしました。本章では、戦後、よりよい社会を目指して奮闘してきた日野の人びとのあゆみについて、昭和30年の新日

野町誕生後の時期を中心に、行政・自治・産業振興・文化振興などさまざまな視点から描きます。付録CD-ROMには、当時の日野の風景や人びとの姿をいっきと写し出す古写真のほか、本編で活用した貴重な史資料を収録する予定です。

## 〈予約と販売のご案内〉

『近江日野の歴史』各巻の販売価格は四、〇〇〇円（税込み）です。なお、「近現代編」につきましては、平成26年1月末日までに予約のお申し込みをいただきますと、三、八〇〇円の割引価格にて販売いたします。

また、最終巻が無料となる全巻セット購入も受け付けています。



▲日野尋常高等学校